

令和5年度第2回学校運営協議会 記録

日 時 令和6年2月19日(月)

10:00~11:30

場 所 小中学部音楽室

○出席者

学校運営協議会委員6名 A委員(社会福祉関係者)
B委員(地域関係者)
C委員(地域関係者)
D委員(企業関係者)
E委員(社会福祉関係者)
F委員(P T A関係者)

学校関係者9名 校長、副校長3名、事務長、総括教務主任、
小学部主事、中学部主事、高等部主事

～ 授業参観 ～

次 第

- I 開会のことば
- II 校長あいさつ
- III 報告・協議
 - 1 令和5年度学校運営状況について
 - ・令和5年度の学校評価について
 - 2 令和5年度の主な事業の実施状況について
 - (1) 特別支援教育のセンター的機能について
 - (2) 交流学习及び共同学習について
 - (3) 学校へ行こう週間について
 - (4) 中学部・高等部の進路状況について
 - 3 令和5年度のいじめアンケートについて
 - 4 その他
 - ・第7回特別支援学校技能認定会結果について(高等部)
- IV その他
- V 意見・提言
- VI 閉会のことば

I 開会

II 校長あいさつ

小中学部の授業を参観していただき、ありがとうございました。コロナの5類移行に伴い、声と音が戻ってきている。しかしインフルエンザが流行し、引き続き感染症対策を継続しながら学習や諸活動に取り組んでいる。

教育活動ではコロナ以前に戻るのではなく、新しい形を作るよう工夫している。

1月30日には中学部の生徒が青山雪あかりに参加し、2月14日、15日は高等部の生徒がベルフ青山での製品販売会を行った。地域の皆さんに支えられながら、活動していると感じている。

III 報告・協議

1 令和5年度学校運営状況について

- ・令和5年度の学校評価について（副校長より説明）

A委員：保護者及び教職員アンケートについては匿名で行われているものか。

校長：はい。

A委員：アンケートに答える方の個々の考えに違いがある。本事業所ではコロナ禍で面談しづらい部分もあったが個別面談をしてきた。学校アンケートの内容は、児童生徒に係る保護者の思いではあると思うが、学校に来て児童生徒の様子を見る機会が少ないことからくるアンケートの答えではないかとも考える。一人一人について保護者及び教師間で共有できる捉え方をすれば解決になっていくのではないかと考える。

B委員：授業参観を行い、職員が細やかに準備をし、子どもに分かりやすく指導しているように感じられた。いい学校とは、「生徒がいい顔をしている」「職員がいい汗をかいている」「建物がきれいに使われている」ことだと考える。今日の子どもたちの表情は明るくて良かった。小学部では6年生を送る会の練習を頑張っていた。中学部では、時計のプリントや漢字のなぞり学習に取り組んでいた。また、盛岡北高等学校との交流が今でも続いていて良いと感じた。

資料に、「人権教育を意識した指導が必要である」ということが記載されているが、どのような研修をしているのか、また講師なども頼んでいるのか教えてほしい。

校長：研修は資料などを使って行っている。講師はお願いしていない。

B委員：高等部の就労先として、B型事業所の人数が多いのは仕方がないと考えるが、日々活動できる場所があり、そこで給料をもらうことができるというのは良いことだと考える。

C委員：コロナが5類になり、これから活動が活発になると考える。授業参観で、一人一人の活動している様子を見ることができよかった。教師もきめ細やかな指導をしているところが素晴らしいと感じた。この地域において、地域としても学校の存在が必要だと思う。地域の集会所にプランターを置いていただき、華やいだ様子であった。来年度の9月28日に作品展展示会を行う予定である。ぜひ美術作品等の展示をお願いしたい。地域の人の中にも、盛岡みだけ支援学校を知らない人がいる。作品展に出品していただく

ことで、学校理解の一つのきっかけにしたいと考えている。児童生徒の活動を普及し、地域への理解を進めてほしい。

C委員：アンケートの中に、トイレについての記載があったが、洋式への変更について、県としての見通しがあるのか教えてほしい。

事務長：県でも進めており、本校でも要望を出している。

C委員：市内中学校でも和式トイレを使えない子もいる。早めに整備してほしい。

C委員：教室の狭さについて、高等部には空き教室があるのか教えてほしい。

校長：今はあるが、あと5年もすれば、以前と同じ状況になる。

C委員：県としての方針は何かあるのか？

校長：盛岡みたけ支援を狭隘化の対象として話をしているが、今すぐどうにかなる状況には至っていない。

C委員：児童生徒が頑張っているのもっと思いっきり活動をさせたい。

働き方改革として、行事の精選が挙げられているが、悩ましいことと感じる。児童生徒にとっては、行事をとおして学ぶことがたくさんあると思う。指導する教師が疲れているとも感じられる。保護者と学校との連携の中で、どうするか課題であると考えてる。

D委員：全体のアンケートを見ると飛び出した数字に目が行きがちではあるが、保護者アンケートで進路に関しての評価が高くなっているがどうしてか。

副校長：今年度、進路のしおりの別冊として、各事業所の詳細な情報を載せたものを作成し配付したこともあると考える。

D委員：PRは大事だと考える。知ってもらうことが大事である。

復興に関しての設問では数字が落ちている。(－5.8)。東日本大震災の被災地の学校の様子はニュースで取り上げられている。他校の成功例を参考にすれば、何かヒントとなるのではないかと考える。

E委員：アンケートについて、児童生徒たちは端末利用をしての回答となっているが、「分からない」が多い。3択で取り組んでいるのか教えてほしい。可能であれば、5段階にするなど、分からないことの分析ができればいいと考える。

人権教育に関して、資料の配付ということであったが、子どもの権利条約に則って行うものと考えてるが、話し方によっては威圧的だという捉え方をする子どももいる。世の中が変わってきており、時代とともに教師の人権意識を高めていかなければならないと考える。また、職員のコミュニケーションに関しての部分では、どのように工夫していこうと考えているのか教えてほしい。

F委員：保護者のアンケートの中に「威圧的」や「残念な」という言葉があったが、保護者の受け止め方も様々である。盛岡みたけ支援学校は小1～高3まで12学年ある。保護者の年齢にも幅がある。また、兄弟姉妹の存在など、家族構成によっても答え方が違ってくると感じる。

職員の満足度が下がっているのが気になる。先生方が学校で頑張っているのと同じように家庭でも努力していかなければならないと考える。

2 令和5年度の主な事業の実施状況について

(1) 特別支援教育のセンター的機能について(副校長より説明)

C委員：相談事例としてはどのようなものがあるのか

副校長：地域支援では教育支援委員会や就学指導委員会へ出席している。また、巡回相談では、学校へ赴き、児童生徒の個別の支援計画等を見ながら児童生徒個々へのアドバイスをしている。

C委員：何人ぐらいの職員が担当しているのか。

副校長：4人である。

C委員：この担当職員は授業をもっているのか。

副校長：全員もっている。

(2) 交流学习及び共同学習について（副校長より説明）

(3) 学校へ行こう週間について（担当者より説明）

(4) 中学部・高等部の進路状況について（副校長より説明）

3 令和5年度いじめアンケートについて（副校長より説明）

4 その他

・第7回特別支援学校技能認定会結果について（副校長より説明）

IV その他

V 意見・提言

B委員：来年度の検討事項としてお願いしたい。

運営協議会の在り方として、授業参観等の時間帯の割り振りについてであるが、授業参観45分で休憩なしで協議時間45分としてはどうか。途中の休憩については、各自で必要に応じて取ることにする。そして、多くの人が発言できる時間を取り、最後に校長先生のお話で締めさせていただくという進め方にしてはどうだろうか。

VI 閉会の言葉

校長：C委員様から行事の精選についてのお話があった。行事に限らず、どこかで何かをなくしていかなくてはと考える。努力していきたい。

E委員様より、コミュニケーションについてのお話があり、学校長会でも話題になっている内容である。今の大学を卒業したばかりの職員は学生生活をリモートでやってきている。Teamsによる会議は、連絡はできるが協議はできないといわれているので、考えていかなければならないことである。いじめについては校長から積極的に認知してほしいと言っている。それはいじめという捉えではなく、児童生徒の成長の一つの過程として捉えて指導を行ってほしいとの思いから伝えていることである。コロナ感染症などいろいろ重なっている時期ではあるが、児童生徒がいつも真ん中にある学校を作っていきたいと考えている。本日はありがとうございました。今後ともよろしく申し上げます。